人間学部の課題解決型実習

地域に出て調査や聞き取り 学びへの興味・関心深める

人間学部の基礎総合演習Ⅰ（1年次生対象）は、大学で学ぶ上で必要となる基礎的なスキルの習得を目的として行われる。

グループごとに研究テーマを設定し、地域の見学調査を行い、その結果をまとめて発表することが前期の主要な活動だ。

▲ 魚市場の方の話を熱心にメモする学生たち

一連の学習プロセスの中で文献の探し方、聞き取りの仕方、レポートの書き方、発表の仕方などを学び、人間学部での学びに興味・関心を深めるとともに、問題解決力、さらにはチームワークなどを育む。

魚市場を訪問

5月29日には、地域に出て聞き取り調査を行った。永山貴洋助教（スポーツ心理学）、大縄道子准教授（アメリカ文学・英語教育学）が指導するグループは、石巻市魚市場（石巻市魚町）を訪問した。

調査に先立ち同22日には、質問事項を決めるなど事前準備を行った。

石巻漁港は、2011年の東日本大震災の前は全国有数の水揚げ量を誇った。三陸・金華山沖漁場を控え魚種が豊富。沿岸漁業、沖合遠洋漁業の拠点としても名高く、リアス式海岸という地形から養殖漁場としても優れ、四季を通じて多くの新鮮な魚介類が水揚げされた。震災によって甚大な被害を受けたが、少しずつ復興を遂げている。

そうした背景をもとに、調査のテーマを「魚市場を通して東日本大震災について考える」と定め▽漁師について（年齢層、地元住民が多いか、など）▽震災後漁獲できる魚種の増減、特定の魚が漁獲ゼロになった理由は――など、主な質問を決めた。

永山助教、大縄准教授は「なぜ？」という疑問を大切にして「質問内容は具体的に」自分の興味、関心だけではなくそれによって何がわかるかまで考えてほしい」などのアドバイスを与えた。

29日は好天に恵まれ、鹿野茜さん（宮城県聖ウルスラ学院英智高）は「震災後の現状を知ることができた。魚市場の方の『魚にも愛情がある』という話は興味深かった。これから大切に食べようと思う。牡鹿美咲さん（宮城県聖和学園高）は「魚について詳しく知ることができた。石巻漁港ではタラの漁獲量が豊富で、冬期以外も取れるということに驚いた」と話した。

理工学部、経営学部、人間学部の3学部計7学科を擁する石巻専修大学には文系、理系の多様な学生が集う。4月にはキャンパス内に最新の設備を備えた個室型の学生寮「石巻専修大学ユニバーシティハウス」がオープンし、JR仙石線の全線運行再開と併せ、ゼミ活動や研究、サークル活動に打ち込める環境が整った。

キャンパスで快適生活

石巻専修大学ユニバーシティハウス

ゆとり生まれる学内寮

▲ ラウンジで話が弾む。フロアごとにインテリアが異なるのも特徴の一つ

キャンパスの東側に、学生たちを見守るように建つ亜麻色の建物が4月に お目見えした学生寮「石巻専修大学ユニバーシティハウス」。エントランスの横にはガラス張りのダイニング・カフェ（レストラン）が張り出し、おしゃれな雰囲気が漂う。

耐震性を備えた耐火重量鉄骨構造4階建てで、延べ床面積は4154平方㍍。オートロックで、寮生はカードキーと暗証番号で出入りする。150室ある居室は机、ベッド、バス・トイレ、ミニキッチンを備えた都市型ワンルームマンションタイプで、プライバシーが確保されている。

「忘れ物をしてもすぐ取りに行くことができ、10分で教室に戻れます」（佐々木愛さん＝理工3・宮城県明成高）

「昨年まで自宅通学サークルを利用していましたが、寮はバスの時間を気にすることがないので時間に余裕ができました」（阿部彩香さん＝理工2・岩手県一関第一高）

それぞれ仙台市、一関市から通っていた2人にとって大学生活を楽しむゆとりが生まれた。

佐々木さんは4年次になると授業が少なくなるため1年で退寮するが、阿部さんは卒業まで暮らす予定だ。

▲ 寮生活について話してくれた佐々木さん（左）と阿部さん＝阿部さんの部屋で

名物！焼きたてパン

寮生は1年次生が約80人の得難い思い出になる」（坂田学長）という言葉どおり、女子はスポーツ大会を開催。共同生活を楽しむ機運が高まっている。

寮生活の満足度を左右する食事は、厨房で手作りされている。管理栄養士がバランスのとれたメニューを工夫しており、「毎日おいしい食事が楽しみ」（児玉さん）と寮生に大好評。苦手な野菜が食べられるようになった学生もいる。

朝食はその日の好みで洋食、和食から選べる。陸上の朝練習を済ませて朝食を食べに来た遊佐源生さん（理工2・宮城県東北学院榴ヶ岡高）は「仙台から通っていたのでじっくり上練習できるようになった。練習するとおなかもすきます。ご飯とみそ汁はおかわり自由。『いつもおかわりしています』（白鳴賢仁さん＝理工1・福島県いわき光洋高）、「ボリューム満点で豪華です」（御簾納優花さん＝理工1・東京都明治学院東村山高）など各（19時～21時）は寮生以外の学生も食べられる（1食540円、提供数限定）。

カフェタイム（11時～16時）に販売される焼きたてのパンは、キャンパスの名物に。ミニクロワッサン（4個入り100円）、メロンパンなど100円から200円で種類も豊富。売り切れになる日もあり、居心地の良い空間でコーヒーを味わう学生が増えている。

▽寮費＝月額6万5000円（食費・管理費込み）。初年度だけ入寮費3万5000円が必要。水道光熱費などの実費がかかる。

▲ 朝食を楽しむ寮生たち

新生サークル

女子競走部

意気込む 精鋭部員

▲ トレーニングする選手たち。走り込む距離も伸びてきた

趣味や目標を仲間と分かち合い、学生生活を豊かにするサークル活動。本学では体育会系、文化会系、学生会など合わせて43団体が活動している。

4月に発足した女子競走部は、朝夕合わせて1日約30㌔の走り込みを行っている。7人の部員は「練習はきついけどやりがいがある」「良い仲間に恵まれて頑張れる」「1期生として結果を残したい」と新たな環境で意気込みをみせる。

東北学生陸上選手権（5月15～17日、宮城県利府町）には800㍍、1500㍍、5000㍍、1万㍍に7人全員が出場。原田詠麻主将（経営1・静岡県静岡北高）が1万㍍で4位となったほか、5000㍍で川崎美祈さん（人間1・山形県山形城北高）が6位、牧野あやさん（経営1・岩手県北上翔南高）が7位と健闘をみせた。

部員たちは合宿所で共同生活を送りながら、女子駅伝での活躍を夢みる。栄養面を考慮した食事、泉田利治監督の細やかな練習メニューで日々地力がついているのがわかると口をそろえる。

「潜在能力の高い選手が集まってくれた。これから1年、2年とトレーニングするなかで能力を発揮できるよう刺激を与えていきたい」と泉田監督は話す。

今年の目標は10月の全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝、仙台市）に出場すること。故障しない体づくりに重きを置き、精神面の成長を見守る。

津波で犠牲　英語を教えた米国女性

テイラーさん記念文庫

東日本大震災で津波の犠牲になった米国人女性テイラー・アンダーソンさん（当時24歳）＝写真＝の日本への思いが詰まった文庫が石巻専大図書館に設置され、多くの人が足を止めている。さらに本学とテイラーさんの母校、ランドルフ・メーコン大学（バージニア州）との間で交換研修を柱とする交流事業が組まれ、今夏、両大学からそれぞれ学生が派遣されることになった。「米国と日本の懸け橋になりたい」と願っていた彼女の夢が、さまざまな形で実現している。

風化を防ぐ〝祈念碑〟に

2008年に来日、英語指導助手として石巻市の小・中など7校で英語を教えていたテイラーさんは11年3月11日、同市立万石浦小で被災、子どもたちを校庭から安全な場所に避難させた後、自転車で自宅に向かっているのが彼女の最期の姿となった。

「天真らんまん、明るくて前向きな人。石巻での生活すべてを楽しんでいた」と話すのは、テイラーさんと親交があった本学図書館職員の千葉直美さん。

千葉さんは、テイラーさんのご両親らが基金をつくり、石巻市内のゆかりの学校に「テイラー文庫」として故人が好きだった本などを寄贈していることを知った。

「テイラーさんのことを石巻専大の学生にも知ってもらいたい。震災を風化させないための〝祈念碑〟にしたい」との願いが、父親のアンディさんに伝わり、本学にも「テイラー文庫」を設置することにつながり、14年暮れに文庫が実現した。

図書館の一角に、国際交流、英語教育、異文化理解につながる絵本や書籍など60冊が並び、一般公開されている。

文庫の特製書棚は、津波で愛児3人を失った市内在住（当時）の木工作家・遠藤伸一さんが製作した。

本学にはテイラーさんの教え子がいる。沼津明日香さん（人間2・宮城県石巻商高）で、中学生の時にテイラーさんから英語を学び、高校時代に奨学金を得て米国に3週間留学した。

「世界に目を向けるようになったのはテイラーさんのおかげ」「文庫からは、日本語を熱心に勉強し、子ども好きだった彼女の人柄が伝わってくる」と懐かしむ。

▲ 左から千葉さん、佐藤ひかるさん、沼津さん、佐藤勝偉さん。右がテイラー文庫＝図書館

「日米の懸け橋に」夢をつなぐ

母校との交流事業が実現

ランドルフ・メーコン大学への学生派遣は9月に5人。2週間にわたって防災と復興をテーマに発表などを行うほか語学研修も受ける。一方、同大学からは7月に4人が来日、本学などで研修をする。

本学側1期生となった佐藤勝偉さん（人間2・宮城県仙台東高）は「震災を米国の学生にきちんと伝える義務を感じている」と話す。同じく1期生の佐藤ひかるさん（同・同石巻好文館高）は「海外は初めて。現地の風を感じて、石巻の今の様子を話したい。英語研修も楽しみ」と目を輝かせる。二人とも中学の卒業式の日に震災に遭ったという。

大学の魅力を伝える「オープンキャンパス」。今年度は5回が予定され、毎回テーマに沿った多彩なイベントが行われる（別表参照）。

本学では学生スタッフが運営に参加し、学生ならではの企画も行っている。42人のメンバーをまとめる統括の小國華也さん（理工2・岩手県釜石高）は、「私自身、高校3年時に参加したオープンキャンパスが入学の決め手になりました。来場者の皆さんに楽しんでいただくのが一番ですが、自分たちスタッフも楽しめるようなイベントを目指しています」と意気込みを語る。

学生目線で石巻市内を巡る「石巻市内バスツアー」などの従来のイベントに加え、メンバー全員で意見を出し合いながら、新たな企画を考案中。小國さんは「実際にキャンパスを訪れ、石巻専大生から話を聞くことで、よりよく大学のことを知ることができます。ぜひ一度、石巻に来てほしいです」と話した。

◆オープンキャンパス◆

5回開催　多彩なイベント

来て・見て・発見！ 石巻専修大学を体験しよう！

事前予約不要 入退場自由 無料駐車場有

OPEN CAMPUS 2015

- 6.28 日　大学の授業を体験しよう！
- 7.25 土　研究室・ゼミナールをのぞいてみよう！
- 7.26 日　研究室・ゼミナールをのぞいてみよう！
- 8.23 日　体験型プログラムを楽しもう！

2016年

- 3.27 日　春のキャンパス体験

お問い合わせは… ☎0225-22-7717
入学試験係 nyushi@isenshu-u.ac.jp